

ニュースリリース

平成 24 年 5 月 29 日

小森コーポレーション、
“KOMORI OnDemand”のテーマで drupa 2012 成功に終わる！

株式会社小森コーポレーション(東京都墨田区 代表取締役会長兼社長 小森善治)は、5月3日から16日までドイツ・デュッセルドルフで開催された drupa 2012 に出展いたしました。その結果につきまして、下記の通り報告申し上げます。

お問い合わせ先

株式会社小森コーポレーション
新規事業推進室 吉川武志
電話 03(5608)7812

1951年の第1回開催から50年以上にわたり成功を収めている国際総合印刷機材展で、今回15回目を迎えた「drupa2012」が5月3日から2週間にわたり開催され、16日に閉幕しました。主催者であるメッセ・デュッセルドルフは、会期中に130カ国以上から31万4,500人が来場したと発表しました。これは前回のdrupa2008に対し、およそ7万5,500人の減少ですが、欧米の印刷業界の低迷により、特にドイツ国内と米国からの来場者の減少が主要因との主催者側分析です。

来場者の詳細については、経営者層の割合が、2008年の44.4%から50.8%へと増加したこと、さらに外国からの来場者は19万人以上で全体の61%を占め、drupaが国際的な展示会として高いレベルに位置づけられたことをあらわしています。

また、52カ国から1,850社が出展し、中でもドイツの615社に次いで、中国より251社と中国企業のパワーが際立ったのも特徴と言えます。

今回のdrupaにおける主要なテーマは、自動化、パッケージ印刷、デジタル印刷、ハイブリッド技術、Web-to-printのアプリケーション、環境に優しい印刷でした。出展社の傾向としては、オフセットとデジタルが互いに競い合うのではなく、むしろお互いを補足しあうようなデモや提案がなされていました。

<KOMORI>

drupa 2012では、メインテーマを“KOMORI OnDemand”とし、新たなデジタル印刷技術も含めたKOMORIのソリューションを、7つのサブテーマに展開して、具体的な解決策をお客様にご提案してまいりました。

出展機は、新製品2機種を含む6台のオフセット枚葉印刷機で、内3台はH-UVを搭載。また、デジタルプリンティングシステムシリーズとして、ブランドネームを「Impremia」とし、巻紙式および枚葉式のインクジェットデジタル印刷機のプロトタイプ2台を技術展示しました。その他には、コニカミノルタのbizhubシリーズをOEM化したフルカラーデジタル印刷機を出展しました。会期中、各出展機によるデモは、各日3回ずつ行いました。

OffsetOnDemand Solutionsでは、既に多くの実績を持つ「リスロン G40P」(H-UV搭載菊全判8色反転機)と「リスロン S29」(H-UV搭載菊半裁5色機)のデモを行いました。デモでは、後加工システム、CMS、デジタル印刷システムとのコンビネーションによるオフセットオンデマンドデモをご覧いただきました。統合管理システム「KHS-AI」による20枚以内の素早い印刷立ち上げと「H-UV」による速乾とのコンビネーションによるオフセットオンデマンドの特性を披露。また、カラーマネジメント(CMS)については、2台の印刷機と同ブース内に設置された「K-ColorSimulator」を連携させ、オフセット印刷のプロファイルをベースとしたPODやデジタルプルーフとのマッチング技術も公開しました。後工程システムにより最終製品として冊子を完成させました。

Package Print Solutionsでは、新機種「リスロン GX40 Carton」(H-UV搭載菊全判6色コーター機)と「リスロン G40」(IR搭載菊全判5色コーター機)によるデモを行いました。「リスロン GX40 Carton」のデモでは、H-UVによる厚紙や特殊原反での幅広い印刷適性をご覧頂くと共に、多くのUVパッケージ印刷事例をご紹介しました。同機には、最も早く版交換をできるようシーケンス制御を行うFull-APC(全自動刷版交換装置)、パッケージ印刷分野で重要視される印刷欠点検知を行う2カメラシステムのPQA-S(インライン枚葉機用印刷品質検査装置)を搭載。またオペレーションスタンド上のPDC-SX(分光式色調管理装置)は、パッケージ印刷

での特色測定にも対応し、高品質な印刷物の検査・維持を可能とします。「リスロン G40」では、オーソドックスな油性インキと水性コーティングでありながら、環境や衛生面に配慮した資材の組み合わせで、薄紙から厚紙までの印刷とコーティングの品質の高さをご紹介しました。

Efficient and Multi-flexible Print Solutions では、A1 サイズ市場向けの drupa で初披露となるリスロンの新シリーズ「リスロン A37」(A 全判 4 色機)と「エンスロン 29P」(菊半裁寸延 5 色反転機)によるデモを行いました。「リスロン A37」では、リスロンシリーズの高い基本性能を継承しつつ、ベーシックな機能に限定したことにより、コンパクトで低インシャルコスト・ライフコストを実現した性能をご覧いただきました。「エンスロン 29P」では、安定した印刷品質で幅広い印刷物及び小ロット生産に対応可能で、コンパクト設計や高い収益性につながる作業効率をアピールしました。2 台の印刷機とも薄紙と厚紙との切替えによる印刷効率や、高い印刷品質と性能を追求した、使いやすい印刷機の提案をいたしました。

DigitalOnDemand Solutions では、デジタルプリンティングシステムシリーズとして、ブランドネームを「Impremia」とし、巻紙式および枚葉式のインクジェットデジタル印刷機のプロトタイプ of 技術展示 2 台によるデモをご覧いただきました。4 色-20 インチ巻紙式インクジェットデジタルプリンティングシステム「Impremia IW20」は、最高解像度 1,200dpi、最高速度 150m/min.などの組み合わせによる 3 モード切替式。水性顔料インクを使用し、最大巻取紙径 1,270mm、紙幅 155-530mm に対応します。4 色-29 インチ枚葉インクジェットデジタルプリンティングシステム「Impremia IS29」は、解像度 1,200dpi、最高速度 3,300sph。同機は、コニカミノルタ IJ と共同開発したもので、コニカミノルタブースでは、「KM-1 (開発名称)」として技術展示されました。その他には、コニカミノルタ製「bizhub PRESS C8000」を OEM 製品化し、「Impremia C80」として出展いたしました。

Color Management System (CMS) デモでは、「KOMORI CMS Solution」をテーマに、新しく開発された KOMORI 独自の”K-Color Simulator”を中心に、オフセット印刷のプロファイルをベースとしたデジタルプルーフや POD とのマッチングのレベルの高さと操作性の良さをご紹介しました。

KOMORI Assistance では、KOMORI のグローバルなサービスの現状を解説させていただきました。お客様の既設機の性能を向上させるレトロフィット製品や、ご好評を頂いている予防保全、また日本以外では初めてとなる資材販売ブランド“K-Supply”などのサービスサポートについても詳しくご紹介いたしました。

KOMORI Ecology では、KOMORI の環境への取組みについて、生産環境や製品における実態を、ブースの壁面を大きく使ったパネル展示を行いました。

KOMORI Web, Chambon and Security Printing の Web Press Corner - オフ輪コーナーでは、ご導入ユーザー様や最新技術の事例映像をデモの形でご紹介いたしました。Chambon Corner - シャンボンコーナーでは、フランスに拠点を置く KOMORI シャンボン社で生産されているパッケージ向けインライン印刷機の詳細を映像やパネル、サンプルを展示してご紹介いたしました。Security Printing Room - 証券印刷商談室では、特別な商談室を設置し、関係するお客様への対応をさせていただきました。

その他に Print Gallery - プリントギャラリーとして、KOMORI ブースの壁面やホスピタリティエリアに各種印刷サンプルを掲示いたしました。

前述の通り、drupa 2008と比較して、来場者は20%減とのことでしたが、当社のブースは各出展機によるデモが始まると、毎回沢山のお客様にお立ち寄りいただき、多い時には通路まで人が溢れかえるほどでした。特に技術展示したデジタルプリンティングシステムシリーズには注目が集まりました。新製品として出展したリスロン A37 も好評を博しました。また、今回当社が出展した唯一の反転機であるリスロン G40P は、お客様に最も人気を得た印刷機でした。時代の流れを強く意識した技術的な提案を盛り込んだデモでは、11分で3つのJOBをこなすことが可能であること、加えて同機に搭載した印刷品質検査装置 PQA-S を使用することにより、スキルレスで安定性のある高品位印刷品質を維持する効果を実証したことにより大変高いご評価をいただきました。欧州の標準的な説明主体のデモではなく、KOMORI のスタイルであるダイナミックなデモは、多くの皆様に感動を与えることができたと自負しております。H-UV 搭載機については、日本においては既に130台以上の受注実績がございますが、海外については、当社ブースにおいてデモをじっくりご覧いただき、その特性と優位性をご理解いただけたことにより、今後更に発展／浸透していくものと期待しております。受注についてもお蔭様で想定した成果を収めることができました。今回の drupa を機に、多様化するニーズやトレンドにいち早くお応えできるような総合的なソリューションや製品の開発に対し、今後もさらに積極的に取り組んでまいりたいと存じます。

次回は、2016年6月2日から15日まで開催される予定です。また、皆様と drupa 2016 でお会いできるのを楽しみにしております。